

自己理解を深めるためのキャリア教育の研究

—教科における学びと社会のつながりを取り入れた授業を通して—

高校教育研究会議

牛木 寿美¹

松本 智春²

大川 一幸³

安藤 勉⁴

要 約

高校生がこれから出て行こうとしている社会は、急激な技術の進歩や雇用に関する考え方の変化が著しい。誰もが学校卒業時だけではなく、社会に出てからも、一生涯にわたってキャリア選択を通して自らの人生を形成していくことになる。高校生が今後、将来を見通した上で主体的なキャリア選択を行っていくためには、社会や職業を理解するとともに、自己理解を深めることが大切であると考えた。

本研究会議では、様々な取組が行われているホームルーム活動や総合的な学習の時間の他にも、それぞれの教育活動を通じた日常的なキャリア教育が必要であると考えた。そこで、学校生活の中で最も長い時間を費やしている教科・科目の授業において、生徒一人一人の自己理解を深めることに注目し、キャリア教育の視点を取り入れた授業を実践した。

その結果、授業での学びが日常生活のどのような場面で活かされているのかを探るため、「社会とのつながり」を考える内容や、「他者とのつながり」を意識させるグループでの話し合い活動などを取り入れ、さらに、自己理解を深めるためのシートを活用することで、生徒の自己理解を深めることができた。このような取組から、他者を理解しようとする力や新たな課題を発見する力、学ぶことの意味を考える意識にも向上が見られ、教科指導において効果的にキャリア教育を進めることができた。

キーワード：自己理解、キャリア教育、社会とのつながり、他者とのつながり

目 次

I 主題設定の理由	106	8 川崎市立B高等学校での実践	
II 研究の内容	107	の分析と考察	115
1 研究の目的	107	9 川崎市立C高等学校での実践	119
2 高等学校における		10 川崎市立C高等学校での実践	
「キャリア教育」の枠組	107	の分析と考察	120
3 「授業における自己理解」とは何か	108	III 研究のまとめ	123
4 「授業における自己理解」を		1 研究から見てきたこと	123
深めるための流れ	109	2 教科指導にキャリア教育の視点を	
5 川崎市立A高等学校での実践	110	入れることの有効性について	123
6 川崎市立A高等学校での実践の		3 今後の課題	124
分析と考察	112	参考文献	124
7 川崎市立B高等学校での実践	114	指導助言者	124

¹川崎市立橘高等学校教諭（長期研究員）

²川崎市立川崎高等学校教諭（研究員）

³川崎市立商業高等学校教諭（研究員）

⁴川崎市立高津高等学校教諭（研究員）

I 主題設定の理由

高校生の卒業後の進路は、中学・高等学校進学時に比べると格段にその選択肢が広がる。高校生は、多様な選択肢の中から自分の適性や興味を深く考慮して、社会で貢献するための手段の選択を迫られる。それは、他の選択をしないという決断をすることでもある。

高校生がこれから出て行こうとしている社会は、急激な技術の進歩や雇用に関する考え方の変化が著しい。新規学卒者の就職は困難な状況¹⁾である一方で、就職後3年以内の離職率の高さ²⁾が問題となっており、学校から社会・職業への移行をめぐる問題は、重要な教育課題である。誰もが学校卒業時だけでなく、一生涯にわたってキャリア選択や形成を続けることが必要なのである。

こうした社会で生きていく高校生は、卒業後に就職する生徒はもちろん、大学や専門学校などの高等教育機関へ進学する生徒も、「先に待っている社会」を常に意識していかなければならない。また、青年期にさしかかった高校生は、交友範囲や行動範囲も広がり、接触する社会も拡大する。そして、「自分とは何者か」「自分は何がしたいのか」という自分自身の内面へ関心が深まっていく。

高校生が将来を見通した上で主体的なキャリア選択を行っていくためには、社会や職業を理解するとともに、「自分は何に興味があるのか」「自分は何ができるのか」という自己理解を深めることが大切である。

こうした現状を受けて、川崎市立高等学校では、ホームルーム活動や総合的な学習の時間において、進路ガイダンス、適性検査、卒業生講話や社会人講話など様々な取組を行いながら、生徒一人一人に自分の将来を見据えるためのきめ細かい指導を行っている。しかし、そうした取組にもかかわらず、本研究会議で作成し、川崎市立5校で実施したアンケート³⁾の結果(調査人数1668人)で

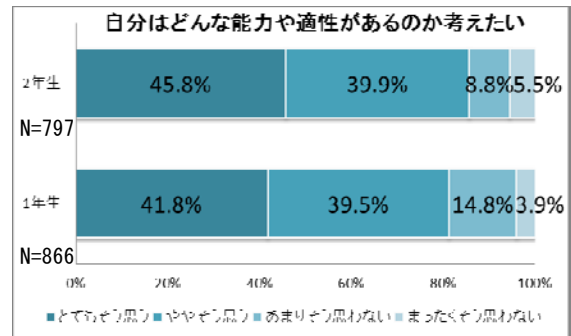


図1 川崎市立高等学校アンケート結果より

は、「自分にはどんな能力や適性があるのか考えたい」とした生徒は80%を超えている。(図1)

本研究会議では、生徒が自己理解を深めるために、日常的なキャリア教育が必要であると考えた。青木(2010)は、「教科・科目こそ教育課程の中心であり、学びの中心である。キャリア教育は全教育活動で推進することであり、その最大の課題は、教科指導にキャリア教育の視点を持たせることである」⁴⁾と述べ、教科指導にキャリア教育の視点を取り入れることの必要性を呼びかけている。高等学校の各教科の学習内容は専門性が高まり、思考も深まるので、各教科担任がこれまで以上に社会とのつながりを示しながら、生徒の自己理解を深めさせる意識を強めていくことが重要ではないだろうか。

平成20年に教育振興基本計画が閣議決定され、「勤労観・職業観や知識・技能をはぐくむ教育(キャリア教育・職業教育)の推進」⁵⁾は、国の施策となった。その後さらに、平成21年に改訂された高等学校学習指導要領の総則においても、「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進する

¹⁾ 平成21年度高卒者の就職率は93.9%で過去7番目に低い。(内定者数14万4千人/求職者数15万3千人) 厚生労働省「平成21年度高校・中学新卒者の就職内定状況等について」<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000006hau.html>

²⁾ 中学卒で約7割、高等学校卒で約5割、大学卒で約4割が、新規学卒就職後3年以内に離職している。厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/05/d1/02-02a.pdf>

³⁾ 本研究会議で作成し、川崎市立5校の1、2年生対象として2010年6月～7月に実施した。調査人数は、全日制(普通科、専門学科各校2クラス)1036名、定時制(全クラス)632名、学年別では1年生871名、2年生797名である。

⁴⁾ 青木猛正「キャリア教育推進の視点―埼玉県の事例から―」『高校教育』2010年11月号 学事出版 p.38

⁵⁾ 文部科学省『教育振興基本計画』http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/pamphlet/08100704.html

こと」⁶⁾と明示され、今後の取組が重要視されている。

そこで、本研究会議では、生徒が学校生活の中で最も長い時間を費やしている教科・科目の授業において、学びと社会のつながりを意識させながら、生徒一人一人の自己理解を深めたいと考えて、次のように主題と副主題を設定した。

自己理解を深めるためのキャリア教育の研究
—教科における学びと社会のつながりを取り入れた授業を通して—

II 研究の内容

1 研究の目的

本研究の目的は、教科指導において学びと社会のつながりを取り入れた授業を進めることによって、生徒の自己理解が深まるということを実践を通して明らかにし、教科指導にキャリア教育の視点を入れることの有効性を示すことである。

2 高等学校における「キャリア教育」の枠組

キャリア教育は、「キャリア教育の推進に関する総合的調査協力者会議報告書」(2004)において、「『キャリア』概念に基づき『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』ととらえ、端的には、『児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育』⁷⁾と定義されていた。本研究会議では、勤労観・職業観に特化せず、高校生が社会に出てからもたくましく生きていけるような教育としての定義を模索していた。その後、中央教育審議会(2010)によって、新たに「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され⁸⁾、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素が図2のように示された⁹⁾。○で囲んだ部分は、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力」として「基礎的・汎用的能力」と位置付けられている。本研究会議では、中央教育審議会による新たな定義を、キャリア教育の定義として共通理解を図り、「基礎的・汎用的能力」の育成をキャリア教育の主眼として取り組んだ。

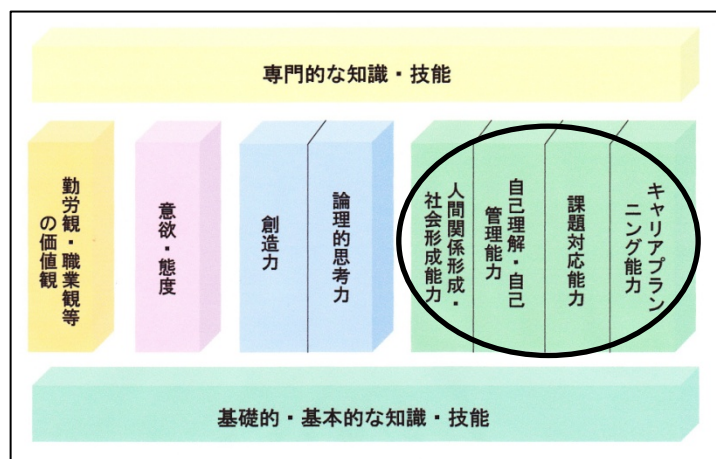


図2 「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の構成（○は筆者による）

表1は、高等学校における「キャリア教育」の枠組をとらえるために、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）」(2010)と国立教育政策研究所生徒指導センター「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育—高等学校におけるキャリア教育推進のために—」(2010)の記述を、本研究会議で再構成したものである。

6) 文部科学省『高等学校学習指導要領』2009年 p.22

7) 文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査協力者会議報告書』2004年 p.7

8) 中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）』2010年p.15

9) 中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（第二次審議経過報告）』2010年p.128より抜粋

本研究会議では、「基礎的・汎用的能力」の中の、特に「自己理解・自己管理能力」の部分(表の)に着目し、キャリア教育の視点として、各研究員が担当する教科・科目の授業に取り入れた。

表1 高等学校における「キャリア教育」の枠組

高等学校におけるキャリア教育の目標				
○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての勤労観・職業観の確立		○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加		
高校1年生のキャリア発達課題	高校2年生のキャリア発達課題	高校3年生のキャリア発達課題		
○新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する ○学習活動を通して自己の能力適性を理解する ○様々な情報を収集し進路選択の幅を広げる	○他者の価値観や個性を肯定的に認め、受容する ○学習活動を通して勤労観・職業観を育成する ○自己の職業的な能力適性を理解し将来設計を図る ○進路実現に向けた課題を理解し、検討する	○自己の能力適性を的確に判断し卒業後の進路について具体的な目標と課題を定め実行に移す ○理想と現実の葛藤を通して困難を克服するスキルを身に付ける		
基礎的・汎用的能力				
	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
能力説明	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	仕事を上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
要素	・他者の個性を理解する力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーション・スキル ・チームワーク ・リーダーシップ など	・自己の役割の理解 ・前向きに考える力 ・自己の動機づけ・忍耐力 ・ストレスマネジメント ・主体的行動 など	・情報の理解、選択、処理など ・本質の理解・原因の追究 ・課題発見・計画立案 ・実行力・評価、改善など	・学ぶこと、働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解 ・将来設計・選択 ・行動と改善 など

3 「授業における自己理解」とは何か

大学生や社会人向けのキャリアカウンセリングの場合では、興味・能力・価値観の3点が、就職支援に欠かせない自己理解(表2)としてあげられる。

では、高校生の場合はどうであろうか。中学校キャリア教育の目標である「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」を受けて、高等学校キャリア教育の目標「自己理解の深化と自己受容」がある。しかし、川崎市立5校で実施したアンケート¹⁰⁾から、図3、図4の結果が得られた。高校生の自己肯定感は低いといえる。

労働政策研究・研修機構研究員下村英雄氏は、「高校生にとって必要な自己理解とは、将来を展望する。自信をつける。得意なことを見つける。」¹¹⁾と述べ、主体的なキャリア選択の力の第一歩は肯定的自己理解としている。

単位を修得していくこと、授業を受けて一定の能力をつけていくことが高校生の授業におけるキャリア形成と考えるならば、授業を通して、「自分はどんな能力を身につけた

表2 キャリアカウンセリングにおける自己理解

- ①自分が好きなこと[興味を活かす]
- ②スキルを持っていること[能力を使う]
- ③重要だと信じていること[価値観の達成]

キャリアカウンセラー養成講座 TEXT5
日本マンパワーCDA研究会 2009年より

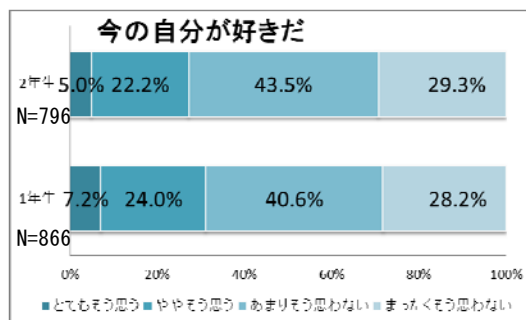


図3 川崎市立高等学校アンケート結果より

¹⁰⁾ 本研究会議で作成し、川崎市立5校の1、2年生を対象として2010年6月～7月に実施した。調査人数は、全日制(普通科、専門学科各校2クラス)1036名、定時制(全クラス)632名、学年別では1年生871名、2年生797名である。

¹¹⁾ 下村英雄 21世紀の川崎の教育を考える集い(高校教育)の講演「キャリア教育の心理学」(2010年8月23日)より

のか」、「自分はどんなことに価値や興味を感じるのか」ということを社会との関連の中で見いだすことが「授業における自己理解」につながると考えた。2年生では、さらに職業的な関連を見いだす必要がある。

本研究会議では、「どんな能力を身につけたのか」という部分に着目し、高校生の教科・科目の授業における自己理解の第一歩を次のように定義した。

授業で身につけた力を生徒自身が気づくこと

ここで、授業で身につけた力とは、キャリア教育の視点から、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」とし、「授業で身につけた力を生徒自身が気づくこと」ことによって、自己に対して肯定的になり、「自己理解が深まる」つまり、「自分自身への新たな気づき」を生み出すと考えた。高校生のキャリア発達課題をふまえて、本研究の対象は、1年生、2年生とした。

4 「授業における自己理解」を深めるための流れ

学びと社会のつながりを取り入れた授業を進めることによって、生徒の自己理解を深めるために次のような、全体の流れを考えた。

(1) 教師は授業を通して生徒にどんな力を身につけさせたいのか (Plan)

自己理解を深めるための授業を構築するにあたっては、生徒の実態、教科・科目の特性と教師の授業スタイルを考慮して、学習指導要領に基づいた指導内容とともに、キャリア教育の視点に立った、どんな力を生徒に身につけさせるのかという明確な目標をもつことが必要と考え

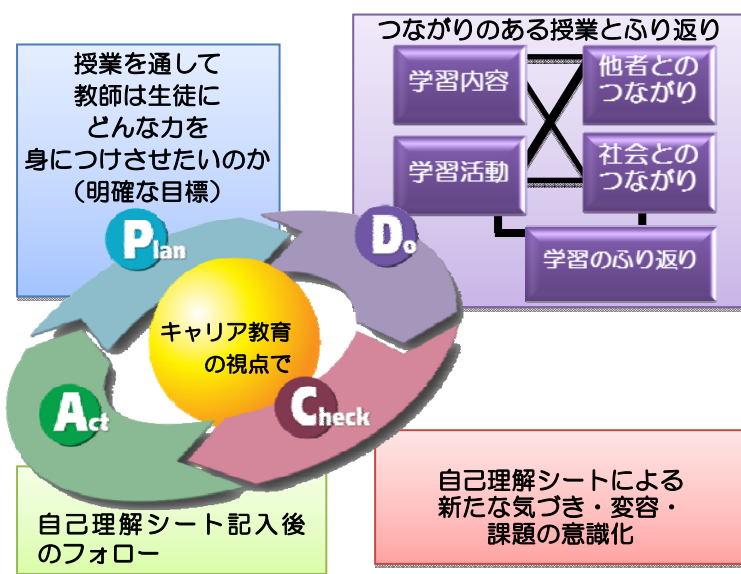


図5 自己理解を深めるための流れ(本研究会議作成)
"Diagram by Karn G. Bulsuk (<http://blog.bulsuk.com/>)".

た。そこで、「正答はないが、より良い方策を他の人と協力して考える力」など、授業で身につけることができ、生徒にも理解できる具体的で明確な目標を各教科・科目で設定した。

(2) 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」を取り入れた授業とふり返り (Do)

①学習内容の工夫

学習内容が日常生活のどのような場面で活かされているのか(表3)、どのような職業のどのような場面で活かされているのかという視点を教材研究に取り入れて、授業で教師が生徒に示すことにした。それによって、生徒は学びと社会とのつながりを意識し、身につけた力をどのように社会や将来に活かせるのかを考え、自己理解が深まっていくものと考えた。

表3 本研究会議で考えた学習内容と日常生活のつながり

○学んだ知識が使われている製品・技術・生活場面などを示す。 例：微分積分の建築での使用。(数学)
○身につけた技能が応用される生活場面を示す。 例：けがの応急処置。(保健)
○思考判断が応用される生活場面などを示す。 例：商品の陳列の仕方。(ビジネス基礎)

②学習活動の進め方の工夫

我々は、他者とのつながりから様々な違いを感じると同時に、自己が見えてくる。そこで、グループでの話し合い活動、発表、また、他者の考えを聞いて意見を書くなどの、生徒に他者を意識させ

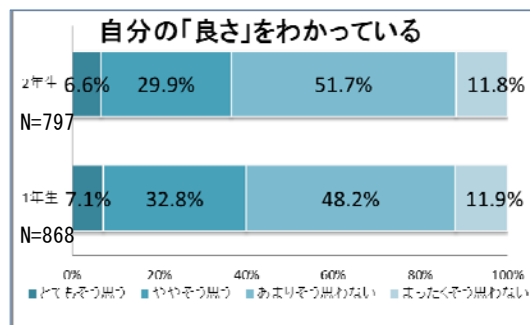


図4 川崎市立高等学校アンケート結果より

る活動を生徒の実態や授業のスタイルに合わせて授業に取り入れた。これは、厚生労働省の若年者就職基礎能力¹²⁾や経済産業省の社会人基礎力¹³⁾で挙げられている社会で求められる能力をはぐくむ学習活動でもあり、社会とのつながりをとらえさせる点からも有効である。

③学習のふり返し

学習のふり返しを授業に位置づけ、学習の目標や意味を生徒に意識づけることにした。

(3) 自己理解シートによる新たな気づき・変容・課題の意識化 (Check)

いくつかの単元の終了後、目標とした力を多くの生徒が身につけたと教師が見取ったところで、本研究会議で作成した自己理解シート(表4)を生徒に記述させた。内容には二点の工夫を取り入れた。一点目は、「自分の将来に役立つか」「日常生活に役立つか」という質問項目を設けて、理由を記述させ、学びと社会のつながりを生徒が意識できるようにした。二点目は、「授業で身につけた力」を記述させ、自分自身への新たな気づきを記述させ、自己理解の深まりを促すようにした。

表4 自己理解シート(本研究会議作成)の質問項目

NO	質問	形式	分類
1	これまでの授業を通して、どのような力が身についたと思いますか。	記述	自己理解
2	授業で身につけた力は、あなたの将来に役立つと思いますか。	選択	社会とのつながり
3	質問2について、なぜそう思いますか。理由を簡単に書いてください。	記述	社会とのつながり
4	授業で身につけた力は、日常生活に役立つと思いますか。	選択	社会とのつながり
5	質問3について、なぜそう思いますか。理由を簡単に書いてください。	記述	社会とのつながり
6	これまでの授業で、自分なりの意見や考えをもつ事ができましたか。	選択	自己理解
7	これまでの授業で、自分の意見や考えを他の生徒に聞いてもらえましたか。	選択	他者とのつながり
8	これまでの授業で、他の生徒の意見や考えを聞くことができましたか。	選択	他者とのつながり
9	これまでの授業の中で、周りのクラスメイトについて「新しく気づいたこと」や「改めて感じたこと」はどんなことでしたか。	記述	他者理解
10	これまでの授業の中で、自分自身について「新しく気づいたこと」や「改めて感じたこと」はどんなことでしたか。	記述	自己理解

(4) 自己理解シート記入後のフォロー (Act)

生徒の記述を読み取り、記述できなかった生徒などに対しては、その原因を探り、その生徒に応じた指導を考えていく。生徒の成長の過程や個性は様々であるが、意識化のフォローを行うことで、キャリア発達課題を高校生活の中の適切な時期に乗り越えていくことにつながると考えた。

5 川崎市立A高等学校での実践(定時制1年・ビジネス基礎)

(1) 教師は授業を通して生徒にどんな力を身につけさせたいのか (Plan)

①研究員による授業観察(6月14日)

- 全体的に落ち着いた雰囲気在学习中、教師の説明や他の生徒の発表もよく聞いている。
- 授業の導入で、前時の感想発表を行い、生徒の意識を引き寄せていた。
- 生徒は、教師の発問などに対して積極的に取り組んでいるが、教師⇄生徒のやりとりが多く、生徒⇄生徒の場面が少ない。生徒同士の意見をつなげていく工夫が必要である。

②教師(授業者)の思い(5月研究会議のスク립トから)

社会性を身につけて次の舞台へ巣立っていってこれればと思う。その中でも最低限の勤労意欲はもってほしい。授業中の生徒の感想を教員の口から紹介する。すると、次の感想で反応が返ってくる時もある。そうしたやり取りの中で生徒が、自分の立場を考えてくるようになった。いろんなことを投げかけるようになると生徒自身が考えるようになって、言葉のキャッチボールができるようになると思う。

③生徒に身につけさせたい力

生徒の実態と教師(授業者)の思いを踏まえて、次のような力を設定した。

みんなで相談して、よりよい方策を考え出す力

¹²⁾ 厚生労働省は、「就職基礎能力」として、コミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、ビジネスマナー、資格取得を挙げている。<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/syokunou/yes/01.html>

¹³⁾ 経済産業省は、「社会人基礎力」として、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を挙げている。http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_image.pdf

(2) 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」のある授業と学習のふり返し (Do)

3回の授業で「他者とのつながり」「社会とのつながり」の検証を行った。学習のふり返しとして、毎時間、教師が記入の観点をその都度示し、授業の最後に感想を記述させた。そして、次の授業の最初にいくつかの感想を生徒に紹介し、考えを共有させた。

① 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」の授業 1 (6月17日・21日)

本時の題材：ビジネスと国際化

時	主な学習活動	「他者とのつながり」(○) 「社会とのつながり」(◎)の視点
1	1. ビジネスにおける国際化をイメージする。	◎ワークシートの題材に販売士の資格更新の問題を取り入れ、生徒に「ビジネスと国際化」で学習した知識を使って考えさせた。 ○「他者の考えを知り、考えを深める」ことを目標とした。1時間目に問題を共有し、生徒に自由に自分の考えを発表させてから記入させ、2時間目に他の生徒の考えを知ったうえでもう一度自分の考えを書かせた。
	2. 国際的にビジネスを行っている企業を知る。	
3. 国際化がビジネスに及ぼす影響を考える。		
4. ワークシートの問題に取り組む。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><問題> 靴を全く履く習慣がない国。あなたの考えは A・B どちら？ A：靴を履く習慣がないのでこの国では全く売れない、経費のムダである。 B：誰も靴を履いていないから全員に靴を履かせるビジネスチャンスである。 あなたなら A・B どちら？ 私は () の考えである。 [理由]</p> </div>		
	5. 本時の感想を記入する。	
2	1. 前時の生徒の考えをまとめたプリントを読む。	
	2. 他の意見を読んで、もう一度自分の意見を書く。	

② 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」の授業 2 (10月14日)

本時の題材：日本の財政を健全化する方策として「子どもを増やす」ためにはどうしたらよいか

主な学習活動	「他者のつながり」(○)「社会とのつながり」(◎)の視点
1. 「子どもを増やす」という問題の背景を知る。	○グループでの話し合い活動を取り入れ、「自分の考えを言えること」と「他者の考えをしっかりと聞くこと」を目標とした。 ◎話し合いの題材に現代社会で実際に自分たちが直面する問題を設定し、これまで学習してきた経済や流通の知識をもとに意見を考えさせた。
2. 出生率の推移を知る。	
3. 「子どもを増やす」ための方策を自分で考える。	
4. 個人の考えをもとにグループで方策をまとめる。	
5. グループで考えた方策を発表する。	
6. 授業の感想を記入する。	
7. 他の意見を読んで、もう一度自分の意見を書く。	

③ 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」の授業 3 (11月18日・25日)

本時の題材：シャッター街となった「商店街」を活性化するにはどうしたらよいか

時	主な学習活動	「他者のつながり」(○)「社会とのつながり」(◎)の視点
1	1. 商店街とは何かを知る。	○グループでの話し合い活動を取り入れた。「自分の考えを言う」「他者の考えをしっかりと聞く」「方策を考える」「発表をしっかりと行う」を目標とした。話し合いを充実させるために、商店街についての知識理解を深める時間、話し合いの時間、発表の時間を余裕のある時間設定とした。
	2. 商店街が抱えている課題を知る。	
	3. 商店街の利点を考える。	
	4. 商店街を活性化するための方策を自分で考える。(表5)	
	5. 本時の感想を記入する。	
2	1. 前時の確認をして、本時の内容を確認する。	◎話し合いの題材に現代社会の題材を取り入れ、自分たちの身近にある問題として生徒の考えが深まるように具体的な場面設定をし、小売業者の知識をもとに考えさせた。
	2. 商店街の活性化するための方策を自分で考える。	
	3. 個人の考えをもとにグループで方策をまとめる。	
	4. グループで考えた方策を発表する。	
	5. 授業の感想を記入する。	

表5 授業3の題材

都心部に近いS商店街は登録店舗数約80店舗、総延長400メートルの商店街である。近年、周辺に大型ショッピングセンターなどの競合店がオープンし、苦戦を強いられている。また店主の高齢化により後継者問題もあって、閉店する店舗が相次ぎ、半数近くが空き店舗になってしまった。このような状況から、お客が減少して活性化策が必要になった。あなたはどのようにして商店街を活性化したらよいと思うか自分の考えを述べなさい。

(3) 生徒の意識化 (Check) (12月1日)

授業3の後に、目標とした力を多くの生徒が身につけたと判断して自己理解シートの記述を行った。

(4) 意識化できなかった生徒へのフォロー (Act)

分析・考察の部分で述べる。

6 川崎市立A高等学校での実践の分析と考察

(1) 授業によって生徒は力を身につけていたのか

授業1では、他の生徒の意見を読んだ後の生徒の記述(表6)から、他の生徒の意見によって自分の意見をふり返り、考えが広がりや深まりをもつ様子が読み取れた。また、この授業の感想に他者の意見を知ることの大切さを多くの生徒が記述していた。自分の意見の深まりや広がりのために他者の意見の大切さを生徒が理解できた授業であったととらえることができる。

表6 授業1のプリントより抜粋(下線は筆者による)

[みんなの意見を聞いてみて再度どう思うか!]	
前回A案の意見(6人)	前回B案の意見(8人)
<p>○やっぱり私の意見はA。私と同じ意見の中で「サンプル」があったりするともしかしたら売れるのかと思った。しかし国の習慣をあまり変えないという意見もわかる。もし、日本で急に素足で生活すると言われても出来ないし、する人がいないのと同じだと思う。Bの意見の中で、災害の時は役に立つと思う。靴を売るなら、災害のためとあって、靴下と一緒に買ってもらうサービスをすれば、売れることが出来るかも知れない。</p> <p>○やっぱり、急に靴を履かせるのは無理だと思うけど…。地震とかあった時は、靴があった方がいいのかなって思った。でも裸足が慣れているから難しいと思う。靴じゃなくて逆にサンダルとかの方が売れそう。</p>	<p>○「足が丈夫である」といった考えは出てこなかった。</p> <p>○災害が…とかの意見が多かったので、考えてみた。ヘルメットも同時に売った方がいいと思った。靴の売り方は、足でガラスを踏んで血を見せる、今度は靴を履いてガラスを踏む、怪我をしないところを見せる。そしたらどれだけ安全かわかる。</p> <p>○A案の人の話を聞いて、文化を変えてはいけないというところに納得するところがありました。裸足に慣れて足が強くなっているというのにも「あー!!!」って感じになりました。私はBの方ばかり考えていたので、A案は思いつきませんでした。他の人の意見を聞いたけど、私はB案だと思います。</p>

授業2では、話し合い活動の前に教師が、今後、生徒自身が直面する題材を取り上げ、出生率の推移などを丁寧に説明したこともあり、経済や流通などの学習したことをもとに多くの生徒がよく考えて積極的に意見を出し合っていた。他者の意見の大切さを理解しているため、お互いの意見をよく聞きながら、相談する様子が見られるようになった。発表とふり返りの時間が十分ではなかったことが課題となった。

授業3では、グループ内でお互いに意見を出し合いながら課題について考えを深めていく姿から、さらに商店街を活性化するために問題となる「資金源」の話へと進んでいき、課題を掘り下げていく様子が見られた(表7)。知識を学ぶ時間と話し合いによって知識を活かす時間を分け、十分に時間をとったことで、生徒同士がお互いに学んだ知識を活かそうとしていると考えられる。話し合いの記録

表7 授業3スクリプトの一部

商店街を活性化するためにはどうしたらよいか[S:生徒 T:教師]	「他者とのつながり」「社会とのつながり」の視点での分析
<p>S1: パーフェクトだ。じゃどうするの?どっから・・・考えてよ。お金。</p> <p>S2: えっ?</p> <p>S1: 資金源!資金源がないよね?</p> <p>S2: あっ、だったら、これだったら赤字になるってこと?</p> <p>S1: だから</p> <p>S2: 安くしなくてもいいんじゃない?</p> <p>S1: そうじゃなくて、イベントするのにお金ないから、10%オフで赤字だね</p> <p>S1: チラシで0になる。結局・・・ね。</p> <p>S2: 最初は赤字にしてもいいんじゃない?</p> <p>S1: ふざけない。</p> <p>S2: だって、赤字じゃなくて・・・</p> <p>S3: ...赤字って、値段が・・・いっぱい買ってもらってみたいな。</p> <p>S2: じゃ、借金をする。</p> <p>S1: 先生、資金源ってなんだっけ?</p> <p>T: お金お金。お金をどうするのってことだよ。</p> <p>S1: 赤字にするとかって言ってるよ(まわりが)。</p> <p>S2: だから赤字にして、、、だめだよ、赤字にしては。</p> <p>S1: だから、借りるんだよ。</p> <p>T: 借りてもかえすんだよ。</p> <p>S3: 銀行に借りて、返すように・・・</p> <p>S1: 市から借りてもうかつたら返す。</p>	<p>○すでに、話し合いの課題である「商店街の活性化」のためには、スタンプラリーを行って集客しようという案が出された。その後、スタンプラリー実施のために資金源が必要だということになった。新たな問題である「資金源について」の話し合いが続いた。</p> <p>○新しい問題の提示に対して話が進んでいく。それぞれが自分の考えを述べる。</p>

や発表といった役割を積極的に果たそうとする生徒が多くなり、教師の指示がなくてもグループ内での役割がスムーズに決められるようになった。グループのチームワークが高まりを見せたと思われる。

これらの生徒の様子から、相談して、よりよい方策を考え出す姿勢が身についたととらえた。

(2) 生徒の自己理解はどのように深まったのか

① 学びと社会や自分の将来とのつながりに対する生徒の意識

9月に実施した生徒のアンケートの結果（自己理解シートと同じ内容）と12月に実施した自己理解シートの記述から、生徒が学びと社会や自分の将来とのつながりを感じているかを検証した。

図6と図7から、生徒の意識は肯定的に変わったことがわかる。

「自分の将来に役立つか」に対しては、全員が肯定的な回答をしている。その理由として、「社会に出ても使いそうな知識ばかり学んでいるから」という学習内容と社会を結びつけて考えている記述が多かった。実際の職業を例として授業の学びがどのように使われているかを示したこと、提示する題材を実際の社会問題にして、授業で学んだ知識を使って話し合い活動で考えさせたことの効果があったと考えられる。また、「仕事をしているときに、話し合いになれて自分の意見とかを言いやすくなると思う」という記述には、授業で身につけた力が、今後の職業生活において必要な力であることを理解している生徒の様子が表れている。明確な目標として設定した力がどのように社会生活や職業生活で使われるのかということ教師が生徒に説明したことが大きな影響を与えていると思われる。

以上のことから、授業を通して多くの生徒は授業での学びと社会や自分の将来とのつながりを感じ取ることができていたと考えられる。

② 生徒の自己理解の深まり

12月に実施した自己理解シートの記述から生徒の自己理解の深まりを検証した。「授業を通して、どのような力が身についたと思うか」という質問に対しては生徒全員が記述しており、授業によって身につけた力を意識することができた。教師が目標とした「みんなで相談して、よりよい方策を考え出す力」に言及した記述は、14名中11名に見られた。表8はその記述例である。生徒の記述には、「～になった。」「～が身についた。」と自分自身の変容をとらえている内容が多く見られた。この検証授業では、本研究会議で定義した授業における自己理解ができたと言える。

「自分自身について新しく気づいたことや改めて感じたこと」については、11名が肯定的な記述をしている（図8）。表9はその記述例である。「改めてビジネスの授業好きだな」という記述があるように、自己理解シートの記述を通して、改めて自分自身を見つめていることがわかる。

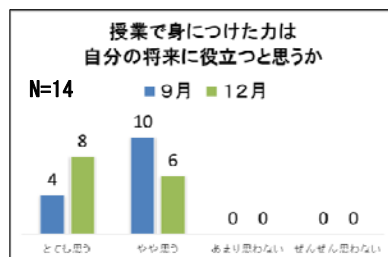


図6 アンケートと自己理解シートから

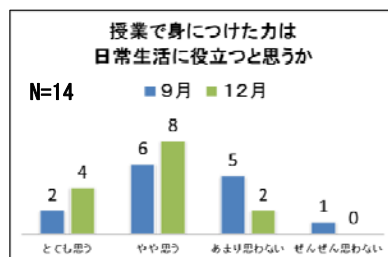


図7 アンケートと自己理解シートから

表8 「授業を通して身につけた力」の記述例（下線は筆者による）

- ・手を挙げて発言できるようになってきたし、グループの時にしっかり発言できるようになってきた。
- ・自分にあった仕事を見つけて働きたいと思えるようになった。発言もよくできるようになった。
- ・いろいろな事に対して、深く考えるようになった。
- ・中学の頃より発言することが多くなりました。クラスの人数もあるかもしれないけど間違えて答えを聞いて「ああそういうことか」と思えるようになりました。
- ・売るだけでなくアイデアを出すのも大変だと学んだ。グループでの学習で自分の意見が言えるようになった。
- ・色々な事を考える力が身についたと思う。
- ・発言できるようになった。楽しく授業受けている。
- ・人の意見もよく考えるようになった。

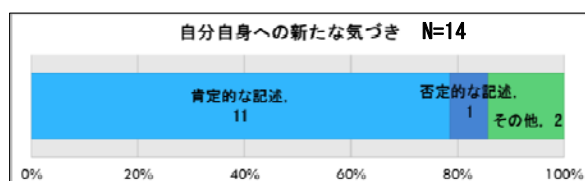


図8 「自分自身への新たな気づき」に対する生徒の記述の質的分类

表9 「自分自身への新たな気づき」の記述例

・ほめられて伸びるタイプだから、先生がほめるから頭よくなった気がする。
 ・自分が知らないことがとてもわかったし勉強になった。A高校に来てよかった。
 ・これから先、役に立つことがたくさんあると思います。ちゃんとやっているとよかったです。
 ・前に出たの発言はまだまだ恥ずかしいのは変わりないけど、手を挙げての発言は前よりできるようになったと思う。改めてビジネスの授業好きだな。
 ・人に自分の意見を言うのは苦手だったけど「やればできる」と思いました。

また、「大人の考えをもってみたい」と記述した生徒がいた。この生徒は「クラスメイトについて新しく気づいたことや改めて感じたこと」に対して、「周りは後先のこととか考えていて大人だな」と記述している。他者への理解とともに自己理解を深めていたと思われる。また、具体的な職業を知ることだけではなく、社会とのつながりの視点を取り入れた題材での話し合い活動を通して自己理解を深めている生徒が多かった。

知識として社会とのつながりを感じるだけではなく、社会とのつながりの視点を取り入れた体験的な活動をすることが、自己理解を深めることにとって有効だったと思われる。

しかし、自分自身への新たな気づきに「特にない」と記述した生徒もいた。後日、教師が個別に話をする中で、授業に対する気持ちを丁寧に聞き取った。

最後に、個人の変容を検証した。Dさんは、学びと社会や自分の将来とのつながりに対する意識はもともと高い生徒であるがおとなしい性格で、6月ごろまでは、休み時間に一人で席についていることが多く、積極的に発言する姿はほとんど見られなかった。グループでの話し合い活動を通して、クラスメイトに対して、「みんな色々な意見をもっていて、違う目線や考えですごくおもしろい」という気づきがおこると同時に、自分自身に対しても「人に自分の意見を言うのは苦手だったけどやればできる」と肯定的に自己理解を深めている。さらに「みんなとの話し合いで、仕事をしている時とかに、話し合いとかになれて自分の意見とかを言いやすくなると思う」と将来へのつながりも感じられるようになった。11月の授業では、Dさんは、グループを代表して前に出て堂々と発表するまでに至っていた。自分自身に自信がもてたことにより、自己表現することができるようになったものと思われる。

(3) 実践を通して

この実践を通して、グループでの話し合い活動などの他者とのつながりは、コミュニケーションのスキルを高めるだけではなく、自己の役割などの自己理解を深めるために有効な活動であることがわかった。さらに社会とのつながりを生徒が意識することは自己理解を深めるために有効な手立てだったということも明らかになった。

そして、生徒が自分自身をふり返り、自分の変容を意識できたことにより、授業に対して積極的に取り組む生徒が多くなった。「記録をやりたい」など、少しずつ自分から役割を買って出る生徒も増えていった。そこには、生徒たちのこんな力を伸ばしたいという気持ち、自分にもできるという気持ちが生徒に生かされている様子を見ることができた。また、生徒の活動に十分な時間をかけるために、教師に授業の内容を精選しようとする意識の高まりがみられた。

7 川崎市立B高等学校での実践(全日制2年・選択数学)

(1) 教師は授業を通して生徒にどんな力を身につけさせたいのか(Plan)

① 研究員による授業観察(6月4日)

- 全体的に落ち着いた雰囲気ですべての生徒が学習に取り組んでいて、教師の説明や生徒の発表もよく聞いている。
- 発表の生徒はノートやプリントを見ながら話していることが多かった。
- 多くの生徒から質問が出るという雰囲気はまだない。

② 教師(授業者)の思い(5月研究会議のスク립トから)

教科で培った力がどのように生活に役立っていくのかを伝えたいが、ここのところがなかなか難しい。教科・科目の中でどんなところが実践的な力としてあるのかという意識がもてるようなものが見つけられるといいのかなと思う。自分がどんな考えでこれを解いたのか。短い時間、短いスペースで自分の意見をどうやってまとめようか。それをみんなで考えよう。みんなで考えるってどういうことかという、自分はこう考えた。何をどういうふうに

使ってこう考えたか説明する。他の生徒と意見交換する。思考過程をどうやってみんなで意見交換しながらたどり着こうかということで、(生徒に問題の解き方を説明させる授業を)はじめた。(※ゴシック体は筆者付)

③生徒に身につけさせたい力

生徒の実態と教師(授業者)の思いを踏まえて、次のような力を設定した。

他の生徒にわかりやすく説明する力 みんなで正答に向かう力

(2)「他者とのつながり」と「社会とのつながり」のある授業と学習のふり返し(Do)

①「他者とのつながり」のある授業と学習のふり返し

「他者とのつながり」の視点を取り入れた指導案(表10)による授業を4月から毎時間繰り返し、6月24日、10月14日、11月18日の3回の授業で「他者とのつながり」の検証を行った

授業や生徒の実態に合わせた学習のふり返し用紙を作成し、9月から授業に取り入れた。

表10 「他者とのつながり」の視点を取り入れた指導案例

過程	学習活動	「他者とのつながり」の視点
導入	①本時の流れを確認する。 指名されている生徒は、休み時間から解答を板書する。黒板は前と後ろにあるので4名が同時に板書する。その他の生徒は自分で解答してきたものと比べる。	○自分の考えを、限られたスペースに筋道を立ててまとめ、他の生徒にわかりやすく板書する。
展開	②解答へのアプローチについて理解する。 解答者は前に出て自分の考えを説明する。最後は、「質問ありますか」「あってますか」「別解ありますか」と他の生徒に尋ねる。 聞き手の生徒は、質問、説明の不備や間違っているところの指摘、他の考え方などの提示を行う。時には、黒板に自分の考えを書いて説明する。	○使用した公式や計算の方法や手順などについて他の生徒にわかりやすい説明の工夫をする。 ○質問などに対して、自分の考えを相手にわかりやすく述べる。 ○説明をよく聞く。 ○解答者や他の生徒にわかりやすく質問、説明の不備や間違っているところの指摘、他の考え方などの提示をする。
	③知識を整理し、理解を深める。 教師から質問や別解の提示を行う。	○教師からの質問などに対して、自分の考えをわかりやすく述べる。
まとめ	④学習のふり返しをする。 ふり返しシートを記入する。	○これまでの活動から問題に対しての自分の気づきを書く。 ○正解・不正解にかかわらず、取り組んだことに対して発表者の良かったところを見つける。
	⑤次回の課題と解答者の確認をする。	○わからない個所を聞いたり教えあったりすることができる。

②「社会とのつながり」の授業(11月8日)

通常解法を中心とする授業では、「社会とのつながり」を取り入れにくかったため、「なぜ数学を学ぶのか」について別枠で授業を設けた。学習意欲の向上も視野に入れて時期も配慮した。多くの生徒が大学進学希望であることから、教師は現在の授業がどのように将来へつながっているかを示した。数学とは、数字の概念を学び、論理的思考を習得していることであるとして、その二つを使うことで未来を予測できるようになるのだということを、様々な生活の場面を示しながら話した。

(3) 生徒の意識化(Check)(12月1日)

11月の授業後、目標とした力を多くの生徒が身につけたと判断し、自己理解シートの記述を行った。

(4) 意識化できなかった生徒へのフォロー(Act)

分析・考察の部分で述べる。

8 川崎市立B高等学校での実践の分析と考察

(1) 授業によって生徒は力を身につけていたのか

10月以降の授業において生徒に次のような姿が多くみられるようになった。

板書に式や計算だけでなく言葉による説明を入れたり、色の使い分けや図やグラフを丁寧に入れたりする生徒が多くなった(図9)。夏休み前までは、プリントやノートを持って読みながら説明する生徒が多かったが、「板書の説明部分を指さす」「聞き手を見て説明する」といった生徒の姿が多くみられるようになった。また、以前は、説明の途中で間違いに気づいて訂正する生徒や、教師にアドバイスを求める生徒がいたが、よどみなく説明している姿が多く見られるようになった。

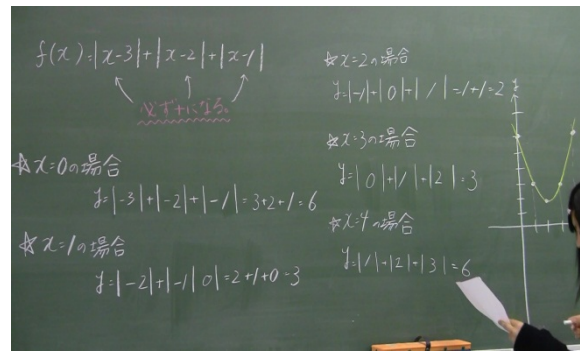


図9 実際の生徒の板書

発表する機会を多くもつことで、生徒一人一人が他者をしっかり意識しながら「わかりやすい説明」をするための工夫をするようになったと思われる。また、毎時間のふり返りシートの記入も影響していると考えられる。

図10は実際のふり返りシートである。何度か書いているうちに、具体的な記述が見られるようになった。「わかったこと」の欄では、問題を解くための法則をまとめて書くようになり(※1)、「発表者のここが良かった」の欄では、発表者の板書や説明の仕方について具体的な内容を指摘するようになった(※2)。このことから、ポイントを押さえながら説明を聞いていると考えられる。また、図11は実際にふり返りシートに記入された「発表者のここが良かった」の部分について、他の生徒からのコメントをまとめて本人にフィードバックしたものである。生徒たちにとって、自分自身をふり返る貴重な機会となっていた。ある男子生徒にフィードバックシートの感想を質問したところ、「公式をきちんと書いていて、式がわかりやすいというがあるので、これからもっとわかりやすく書けるようにしていきたい」と答えていた。他者からの評価を知ることにより、今後の具体的な発表の工夫点を確認できていたと考えられる。

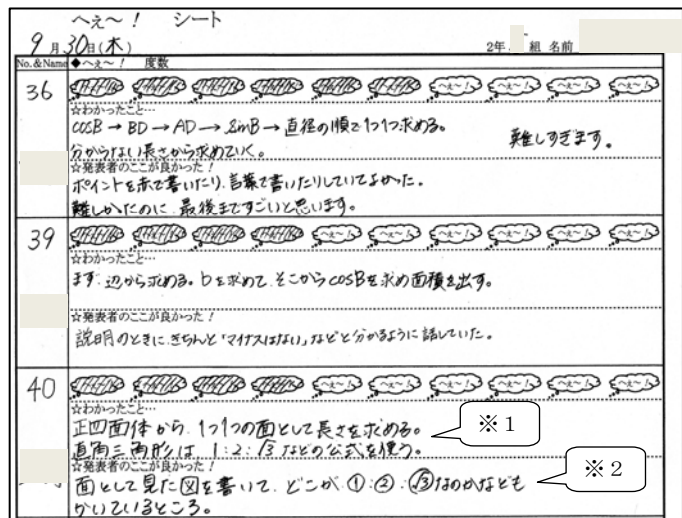


図10 実際のふり返りシート

いつ	誰の	ここがよかった
9月17日	さん	公式を囲んでいること。
9月17日	さん	何度も書き直して頑張っていた。
9月17日	さん	目線 考え方
9月17日	さん	何度もチャレンジしている
9月17日	さん	最初に公式が書いてあったからわかりやすかった
9月17日	さん	一つ一つしっかりやってくれた
9月17日	さん	意見を聞いて図を書いていたところ
9月17日	さん	丁寧な口調
9月17日	さん	説明がわかりやすかった
9月17日	さん	図を書いてくれた
9月17日	さん	細かいところまで説明していた
9月17日	さん	よかったと思います 全体的に
9月17日	さん	図を書いてくれたところ
9月17日	さん	後から質問されたとき、ちゃんと図を書いて説明していた
9月17日	さん	あまりよくわからなかったけど、説明がわかりやすかったので理解できた
10月14日	さん	1を両方に加えるところ。
10月14日	さん	考え方 目線
10月14日	さん	応用
10月14日	さん	やりやすいような式を工夫していてよかった
10月14日	さん	平方完成じゃないやり方だった
10月14日	さん	式のまとまりの良さ
10月14日	さん	1+y=x-4x+3+1にしたこと
10月14日	さん	平方完成のべつのやり方も分かった
10月14日	さん	説明がわかりやすかった
10月14日	さん	どの公式を使うか
10月14日	さん	書き方が良かったと思った
10月14日	さん	y=a(x-p)^2+qの形にすることを示していたところ
10月14日	さん	簡単にまとめてあった
10月14日	さん	1+y=の式で考えていた 両辺に同じ数を代入していた
10月14日	さん	いいアイデアでよかった
10月14日	さん	説明が細かくしてあってわかりやすかった
10月14日	さん	声が大きくてよく聞こえた

図11 実際のフィードバックシート

11月18日の授業では、教師が入らず、生徒同士によって解答へのアプローチが行われた場面が見られた(表11)。これまでは、教師が生徒の意見をうまくつなぎながら進んできたが、この場面では、教師の発言は一切なく、生徒のみで進められている。教師の言葉が入らないためか、論点が定まらない感じがするが、生徒たちは積極的に意見を交換し、周りの生徒も真剣に考えていた。この場面は、まさに生徒たちの「みんなで正答に向かう力と態度」が表れているものであり、生徒たちが目標とする力が身についたととらえた。

表11 11月18日の授業4人目の解答者の説明後の場面

スクリプト [S: 解答者(生徒) S: 聞いている生徒 T: 教師]	「他者とのつながり」の視点での分析
<p>問題：4回ジャンケンをするとき、2回以上勝つ確率</p> <p>発表生徒（解答者）が説明終了後、他の生徒から説明に対して質問が出た。発表生徒が質問に対して答えたのだが、質問した生徒は納得できない様子だった。また、周りの生徒も同様の様子であった。</p> <p>S：何やっているかわからない？ S1：なんか、おかしいよそれ。勝てない時？素直に、素直に4回勝つ確率と3回勝つ確率と2回勝つ確率を求めてやったら・・・ S：いや、だって、それだと3回。余事象使うと2回でいい。たった一つの差だけど・・・ S1：余事象の意味がわからない。ここで使う余事象の。 S：だから、2回以上勝つときってことは、全部から、全部で4回だから、3回、（S1がほかの生徒と問題について話し出した）聞いてないし、自分で言うてるんだから（質問した生徒を注意する。S1はそれに気づいて苦笑い）自分で聞いといて聞いてないし。（笑いながら） S1：理解力不足で。（苦笑い） S：いいよ、だから、4回しかやらないでしょ、ジャンケン。 S1：うんうん。 S：だから、2回以上勝つんだから、3回、あれ、勝てなかったら、もうこの条件満たさない。もちろん全部勝てなかったら・・・満たせないし、それを引いたの。 S1：ということは、引き分けの可能性はないの？ S：いや、だから、引き分けの可能性・・・こっちは・・・ S1：あっそういうことか。じゃ、4回全部負という可能性はないの？ S：いやだから、それは全部3分の2だから、こっちは場合、負けと引き分けの確率で、これが勝ち残っていく、これは全部負けか引き分けかのどちらか。（Sの説明の途中から、後ろの生徒がまた、問題について相談を始める） S1：は～、やっぱり・・・ S3：（S1に話しかける）2回以上・・・ S1：ん？ん～ S：確率はまあ、全部だったら、81分の81になるわけだから、この条件を満たさないときは、81分の40だから、81分の41、あつま、余事象とは言わないか？そうだね。 S1：いやっ（考え込む。周囲の生徒も考え込む）</p>	<p>○S1の質問が続いているが、Sは質問の意図がつかめない。S1も「なんか、おかしい」という漠然とした様子。「余事象」のとらえ方についてのやり取りが続いていく。「何かおかしい」という気持ちをどンドンぶつけていく生徒と一つ一つ説明していく生徒のやりとりで周りの生徒も声を出していく。</p> <p>○質問について自分の考えを説明している。</p> <p>○解答者の説明に対して、さらに質問を続ける。</p> <p>○2人のやりとりで、ほかの生徒もそれぞれに考えを周りの生徒と相談し始める。</p>

(2) 生徒の自己理解はどのように深まったのか

①学びと社会や自分の将来とのつながりに対する生徒の意識

9月に実施した生徒のアンケートの結果（自己理解シートと同じ内容）と12月に実施した自己理解シートの記述から、生徒が学びと社会や自分の将来とのつながりを感じているかを検証した。

図12と図13から、生徒の意識はやや肯定的に変化したことがわかる。「自分の将来に役立つか」に対する生徒の記述には、特徴的な変化が見られた。表12は、生徒の記述内容を質的に分類したものであるが、「授業で身につける力の習得の重要性」を挙げる生徒がとても増えた。具体例を挙げると、「図形とかは将来に役立たないと思った」という数学の知識・技能の必要性・有用性を理由に否定的だった生徒が、「自分の考えを説明するのは、どんな職業についても必要だから」と授業で身につける力の習得の重要性で肯定的に変化した。同様に、職業生活に必要なと答えた生徒が増えた。これは、「社会とのつながり」の授業を行ったことが要因だと考えられる。教師は、様々なアプローチ

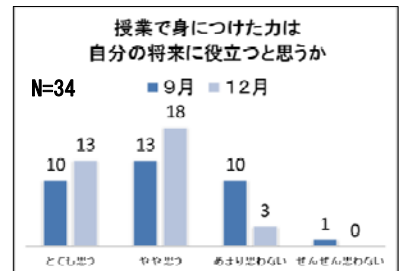


図12 アンケートと自己理解シートから

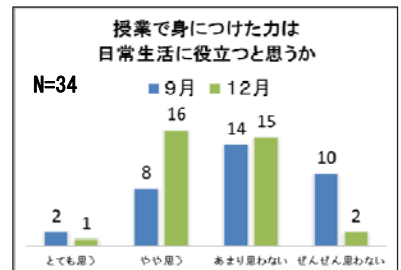


図13 アンケートと自己理解シートから

表12 生徒の記述の質的分类

	数学の知識・技能の必要性・有用性		授業で身につける力の習得の重要性		将来の職業や進路の選択との関係		その他	
	9月	12月	9月	12月	9月	12月	9月	12月
肯定的な記述	23.5%	8.8%	14.7%	47.1%	38.2%	38.2%	0.0%	8.8%
否定的な記述	14.7%	11.8%	0.0%	0.0%	17.6%	5.9%	2.9%	0.0%

で「なぜ数学を学ぶのか」を説明していたが、他の生徒に対し

てわかりやすく説明する力や論理的思考力の重要性に言及し、日ごろの授業でも繰り返した。それが発表する学習活動と結びつき、生徒の意識の変化につながったと思われる。

このことから、授業を通して多くの生徒は学びと社会や自分の将来とのつながりを感じたと同時に、授業に対する有用感が高まったと言える。

②生徒の自己理解の深まり

12月に実施した自己理解シートの記述から生徒の自己理解の深まりを検証した。

「これまでの授業を通して、どのような力が身についたと思うか」という質問に対して、生徒全員が記述しており、授業によって身についた力を意識することができた。教師が目標とした「他の生徒にわかりやすく説明する力、みんなで正答に向かう力」に言及した記述は、34名中21名に見られた。表13はその記述例である。この検証授業では、多くの生徒が本研究会議で定義した授業における自己理解ができたと言える。

「自分自身について新しく気づいたことや改めて感じたこと」については、対象34名中14名が肯定的な記述をしている(図14)。表14はその記述例である。改めて自分自身をふり返って記述することによって、具体的な場面での自分の姿をふり返り、前向きに考えるように変化したことに気づいている様子が読み取れた。

一方で、10名の生徒が否定的な記述をしている。なぜ、30%もの生徒が否定的な記述をしているのか。この生徒たちも「授業で身についた力」は記述できていたので、二つの質問に対する記述の関係性を探ってみた。表15はその記述例である。

表15から、否定的な記述をしている生徒は、自分の課題を記述していたことがわかる。生徒1は、「自分で考えたことを相手に伝える力」はついたと思っているが、「自分自身への新たな気づき」では、数学の用語を使えばもっとわかりやすく説明できるという自己の課題の言及をしており、自己理解がより深まっていると考えられる。対象生徒が2年生ということ、授業の中で常に他の生徒の解法を見ていたことや、発表を聞いて

表13 「授業を通して身につけた力」の記述例

- ・黒板の書き方や説明力。
- ・説明力(人に何か伝える力)
- ・人前でどのように発表すればみんなが理解しやすいかそしてそれを実行しようとする力。
- ・人に自分の考えを説明する力が、少しはついたと思います。
- ・人に意見を聞いていいところを自分のものにする。
- ・自分の考えをわかりやすく相手に伝えることが少しできるようになった。 ・読解力
- ・間違いに気づいてそれを発言する力がついたと思います。
- ・別の方向から考える力
- ・しっかりと自分の意見を発言する力や問題を解く力
- ・人の意見を聞いてしっかり理解して尊重したり自分の考えも言えるようになった。

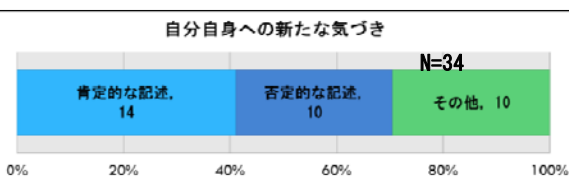


図14 「自分自身への新たな気づき」に対する生徒の記述の質的分類

表14 「自分自身への新たな気づき」の記述例 (下線は筆者による)

- ・人前に立つ前にしっかりと問題を理解して発表していることに気づいた。机上の勉強では「これはこうなる」くらいの勉強や覚え方しかなかったけど、人に自分はこう考えてこう答えたとき発表する時にはしっかりと自分自身で理解しておかないと自信のない発表になるし、聞かれた時にこたえられないと考えると、問題の深くまでしっかりと考えるように(理解するように)なった。
- ・自分が当たると自分がやらなくてはという責任感を感じていつもいいかげんだったのに教科書を使ってしっかり解いていたから、私にもやればできると思いました。
- ・数学の応用は難しいけど、基礎をどんどん応用していけば頑張れると思いました。
- ・1つの問題に対して他の方向から考えること。
- ・難しい問題でも、前は難しい問題をあきらめていたけど、取り組むことができました。

表15 記述の比較例

生徒	授業で身につけた力	自分自身について新しく気づいたことや改めて感じたこと
1	自分で考えたことを相手に伝える力	自分自身は理解しているのに、人前だと焦ってしまい、うまく言葉で伝えられなかった。人に教えるときにはもっと数学の用語を覚えるべきだと思った。
2	基礎知識を使っでの発展的発想	自分が説明下手なこと。理解力。
3	受験に必要な数学をさらに詳しくやれて、これは受験で大きな能力になると思う	自分には、自分自身で考える力がなく、考える前にすぐ教科書や資料に頼ってしまうこと。
4	計算力・公式の利用・図形の考え方	みんなに比べて自分は少し自分に甘いと思った。いつもどうにかするという考えがいけなかった。

ていたことが大きく影響したと思われる。また、ふり返しシートやそのフィードバックによって課題がとらえやすかったのではないかと考えられる。こうした前向きに授業に取り組もうとする様子が見られたのは、社会とのつながりを感じたことにより授業に対する有用感が高まったことが影響している。自己の課題に言及できた生徒については、授業の中で生徒の課題の克服のために、教師の支援が行われるようになった。

(3) 実践を通して

この実践を通して、生徒の変容から、教師が学びと社会のつながりを示すことによって、授業に対する意識が変化し、そして学習意欲が高まったのではないかと感じられた。10月以降の授業では、生徒同士で授業を進める場面がとて多くなっていった。

ふり返しシートのフィードバックにより、他者の評価を受け取ることが、自己の課題発見など、自己理解をさらに深めるためにとても有効であることがわかった。また、ふり返しシートを記述することが他者への理解を深めることに有効であり、そこから自己理解も深まる。そして自己理解が深まることによってさらに具体的に記述できるようになっていった。自己理解と他者理解は、相互関係をなして深まっていくことがわかった。

9 川崎市立C高等学校での実践（定時制1年・保健）

(1) 教師はこの授業を通して生徒にどんな力をつけさせたいのか（Plan）

① 研究員による授業観察（6月12日）

- 生徒は、学習プリントによく取り組んでいた。
- 意見文については、記入への意欲はあるが、記入前の議論が足りなかったことと、短意見文の題材への理解が不十分だったことによりあまり記入できない様子であった。
- 生徒⇄生徒のやり取りが少なかった。

② 教師（授業者）の思い（5月研究会議のスク립トから）

学校は一つの答えを求めていくことが多いが、社会では一つの答えだけが正しいとは限らない。世の中には答えを出せない問題も多いという話をしたり、他の友達の意見を示したり、大人からみた意見を示したりする。そうした、いろんなことが絡んでいるところから、知識をたくさん集めていると役立つということを伝えている。（担当の）保健の中でいろいろなつながりをもっているように意識している。特に、定時制の生徒は「働く」ことが身近だから、もっとお金のあり方、使い方に敏感になってほしいと思っている。

③ 生徒に身につけさせたい力

生徒の実態と教師（授業者）の思いを踏まえて、次のような力を設定した。

様々なつながりをとらえ、他の人の考えを取り込み、自分の考えをもつ力

(2) 「他者とのつながり」と「社会とのつながり」のある授業と学習のふり返し（Do）

「他者とのつながり」と「社会とのつながり」の視点を取り入れた指導案（表16）による授業を4月から毎時間繰り返し、6月18日、9月24日、10月22日の3回の授業で検証を行った。

学習のふり返しについては、生徒が取り組んだ意見文を教師がまとめたものをプリントし、生徒に配付した。クラスの生徒の意見を読むことで様々な意見を知る機会を設けた。

表16 「他者とのつながり」「社会とのつながり」の視点を取り入れた指導案例

過程	学習活動	「他者とのつながり」(○) 「社会とのつながり」(◎)の視点
導入	①前時の内容をふり返る。 ②本時のキーワードを知る。 ワークシートを配付し、キーワードについて知っていることを発表する。	○教師にだけ話しかけるのではなく、全体に対して発表する。

展開	<p>教師の説明を聞き、ワークシートに取り組む。</p> <p>③本時の内容について、理解を深める。</p> <p>④意見文の題材について自分の意見を述べ、他者の意見を聞く。</p> <p>意見文の題を聞きながら、本時の内容とつなげて、自分の意見を述べる。「賛成」、「反対」のどちらの立場であるのか。また、その理由について述べる。</p>	<p>○教師に向かって話しかけるのではなく、全体に対して発言する。</p> <p>○発言をよく聞く。</p> <p>○◎立場と理由をはっきりさせて発言する。</p>
まとめ	<p>⑤意見文に取り組む。</p> <p>授業の内容と関連させながら意見文に取り組む。</p>	<p>○限られた時間と字数でまとめる。</p> <p>○◎必ず健康的な生活を送ることと税金のつながりを取り入れ、指定された内容について書く。</p>

(3) 生徒の意識化 (Check) (12月3日)

目標とした力を身につけることができたと判断し、12月3日に自己理解シートの記述を行った。

(4) 意識化できなかった生徒へのフォロー (Act)

分析・考察の部分で述べる。

10 川崎市立C高等学校での実践の分析と考察

(1) 授業によって生徒は力を身につけていたのか

授業1から授業3へと進むにつれて、ふり返りのために意見文をまとめたプリントを、生徒たちはよく読むようになり、意見文に取り組む姿勢もとても意欲的になってきた。表17は、授業1～3の意見文の題材と記述の抜粋である。

表17 意見文 (抜粋) の例 (下線は筆者による)

<p>授業1 (6月18日) 本時の題材：喫煙と健康</p> <p>「たばこの値段を一箱千円位に上げるべきだ」という意見があります。この意見に賛成ですか、反対ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対。一箱千円は高いと思う。一箱の値段を上げてたばこを吸う人が減るのはよいと思う。けれどたばこをやめられない人はかわいそう。もう少し(たばこの)長さを短くするか(たばこの)本数を減らしてほしい。 ・自分は賛成です。値段を上げれば吸う人が減るのでよいと思う。子どものうちから税金を払うのはもったいない。 ・反対です。それなりに場所をもうければよいのではないかと。 ・賛成です。値上げをして買う人が減れば、その分を家族にまわしてよい影響がでるのでは？すぐには無理でもちよっとずつ規制を強くしていくとよいのでは。 ・反対です。たばこの影響からいうとやめたことによって、いらいらするなどの影響で事件が起こる確率が上がりそうです。 ・反対です。たばこを商売にしている人たちの生活がかかっている。
<p>授業2 (9月24日) 本時の題材：薬物乱用と健康</p> <p>「乱用される可能性のあるすべての『薬物』を使用はもちろん、製造・販売も禁止したほうがよい」という意見があります。この意見について、賛成ですか、反対ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成です。医薬品として病院で処方できるものに変えることはできないのでしょうか。 ・反対です。その薬で人を助けられるかもしれないからです。 ・賛成です。理由は、もし禁止にしなければたとえばタバコだとうとうガンや肺がんなどになりやすいからです。もし、禁止したらガンなどにかかる人がすごく減ると思うからです。 ・私は、反対です。製造や販売を禁止してもむだだと思えます。どうやっても、やりたい人はやると思えます。 ・病気を治すための薬でもあるので、製造・販売まで禁止するのは反対です。 ・賛成です。自分の体だから自業自得だとは思いますが、やっぱり周りの人に迷惑がかかると思う。
<p>授業3 (10月22日) 本時の題材：感染症</p> <p>「インフルエンザの予防接種を無料にしたほうがよい」という意見があります。この意見に賛成ですか、反対ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子どもができたときのことを考えると、無料であってほしい。税金の無駄を探して真剣に考えれば大丈夫。 ・お金がない人はたくさんいる。治したくても病院に行けないから、無料にしたほうがよい。財源は募金とか。 ・国にお金がないのに、無理したら国がより貧しくなる。無料ではなく安くする。 ・各自がもっと予防を心がけるべき。 ・子どもや高齢者への一部無料化で。 ・1世帯一人だけ無料にする。 ・国のお金が減るから無料にしないほうがよいと思う。高すぎてみんな予防接種できないから、安くしたほうがよい。

税金とのつながりを生徒に意識させながら3回とも授業を構築した。各授業後の意見文を比べると、授業3の意見文の中に、税金とのつながりを意見として入れている生徒がもっとも多かった。授業3では、意見文を書く前に、教師から発言を求められた生徒から、「お金がない。国に。だから、無料は

やめたほうがいい」などの発言があった。これまで、あまり発言がなかったが、この授業は挙手をして発言する生徒の姿も見られた。他者の発言を聞くことで、税金とつなげる視点で自分なりの考えを書く生徒が多く見られた授業だった。生徒たちは、他者の考えを取り込みながら自分の考えを表現していたと考えられる。

意見文への取組以外にも、生徒の変容を見ることができた。授業中にしっかりと話を聞く姿勢ができてきている生徒の姿が多くなったことである。そして、自分の考えをまとめてから挙手をして発言する生徒が多くなり、授業の雰囲気が落ち着いたものとなっていた。こうした変容には、生徒が意見文を書くための情報を集めようとしていること、教師が様々なアプローチで授業を進めることに対して、生徒が興味を示していたことが大きく影響していると思われる。

これらのことから「様々なつながりをとらえ、他の人の考えを取り込み、自分の考えをもつ力」が向上したととらえた。

(2) 生徒の自己理解はどのように深まったのか

① 学びと社会や自分の将来とのつながりに対する生徒の意識

9月に実施した生徒のアンケートの結果（自己理解シートと同じ内容）と12月に実施した自己理解シートの記述から、生徒が学びと社会や自分の将来とのつながりを感じているかを検証した。

生徒の意識は図15と図16から、とても肯定的に変わったことがわかる。また、数値以上に、理由の記述に大きな変化が見られた。9月のアンケートでは、肯定または否定にかかわらず、「授業で身につけた力は自分の将来に役立つか」に対して、42名中29名が無記入だったが、12月には3名に減った。また「授業で身につけた力は日常生活に役立つか」に対しては、無記入が31名から4名にまで減った。これまで取り組んできた意見文の成果が表れたと思われる。肯定的な回答として、保健で学んだ知識の有用性に言及している生徒が多かった。これは、

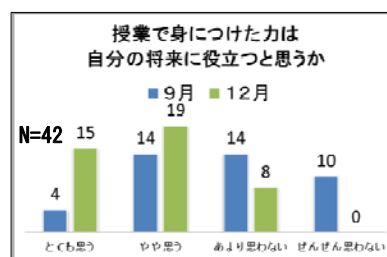


図15 アンケートと自己理解シートから

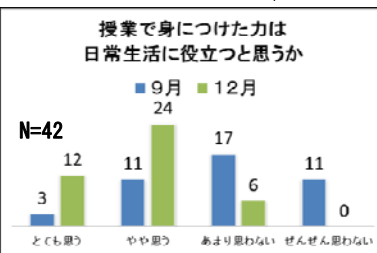


図16 アンケートと自己理解シートから

教師が、健康と税金のつながりを考えさせるために様々な題材で意見文を書かせるにあたって、自分が健康であることは社会とどのようにかかわっているかを考えさせたことが影響していると思われる。また、「書く力や聞く力は、これから必ずいろいろな場面で役に立つ」のように、保健の授業で身につけた技能の必要性・有用性への言及も多かった。

これらのことから、多くの生徒が授業を通して学びと社会、そして自分の将来に結びつけていたと考えられる。

② 生徒の自己理解の深まり

12月に実施した自己理解シートの記述から生徒の自己理解の深まりを検証した。

「これまでの授業を通して、どのような力が身についたと思うか」という質問に対して、42名中38名の記述があり、その多くが授業によって身についた力について触れていた。教師が目標とした「様々なつながりをとらえ、他の人の考えを取り込み、自分の考えをもつ力」に言及した記述も、22名に見ることができた。表18はその記述例である。

表18 「授業を通して身につけた力」の記述例

- ・作文の課題を書く時、「そのことに対して、どう思うのか」という内容についてよく考えて、文にすることが身につきました。
- ・人の話をちゃんと聞こうとする力。
- ・意見文を書く力
- ・人の意見を聞いて考える事
- ・考える力と聞く力が身についた。
- ・意見をちゃんとと言えるようになった。
- ・健康面以外にも社会の”今”のことを沢山知って、「その問題はではどうすれば解決するか」と考えるようになった。
- ・自分からいろいろ知りたくなった。
- ・自分の意見を詳しくかく力を身につけた。
- ・たばこの増税のことなどの話を聞いて、税金などのことを少し考えるようになった。

この検証授業では、多くの生徒が本研究会議で定義した授業における自己理解ができたと言える。

「自分自身について新しく気づいたことや改めて感じたこと」は、対象42名中22名が肯定的な記述をしている（図17）。表19はその記述例である。

「しっかりやっている自分に驚いた」などの記述から、自己理解シートの記述を通して、改めて自分自身を見つめていることが読み取れた。

また、肯定的な自分自身への気づきには、他の意見を聞くことの大切さを記述している生徒が多かった。意見文を書くことや、自分の意見をもつためには、他者の意見が必要だということを生徒が認識できているのである。他者とのつながりが、自分の思考の深まりや広がりやうながすものだとすることを、生徒自身が気づいたと言えるのではないだろうか。この検証授業では、「他者とのつながり」によって、意見文に意欲的に取り組むようになり、意見文を書くことによって、さらに自己理解、他者理解がともに進んだものと考えられる。

また、教師が毎時間、丁寧に「社会とのつながり」を示し、学びが社会や生徒の将来とどのようにつながっているのかを説明したことで、生徒の興味や関心を引き出すことができたと思われる。

さらに、個人の変容についても検証した。Eさんは、学びと社会や自分の将来とのつながりに対する意識は低い生徒だったが、授業を進めていく中で、意見文をまとめたプリントをよく読む姿が見られるようになってるとともに、意見文にも意欲的に取り組むようになった。そして、学びと社会や自分の将来とのつながりに対する意識がとても肯定的に変化した。それと同時に、自分自身に対して、「今までふざけて授業をやったりしていたけど、授業をしっかりやっている自分におどろいた」と肯定的な自己理解を深めている。学びと社会とのつながりが自己理解へとつながり、さらに、「いろいろ知りたくなった」と学習への意欲へとつながりを見せる結果となった。社会と学びのつながりが自己理解を深めることに有効なだけでなく、学習意欲の向上にもつながったと考えられる。

一方で、「自分自身への新たな気づき」に否定的な記述をしていた生徒4名については、フォローの対象とした。授業者が、その生徒の学級担任をしていることから、保健の授業のみならず、様々な機会をみつけては個別に対応している。

（４）実践を通して

この実践を通して、自己理解を深めるために生徒の自己表現力の向上がとても重要なことがわかった。自分の考えを表現することで、その形がはっきりと意識できる。そこに他者などからの影響があることで、思考の広がりや深まりにつながっていく。

また、自己理解が深まるほど、他者から学ぶことの大切さを多くの生徒が理解できていたと考えられる。生徒たちは、意見文の回数が増えるほど、他者の話を聞く姿勢が身につく、結果として、授業が落ち着いた雰囲気になっていった。

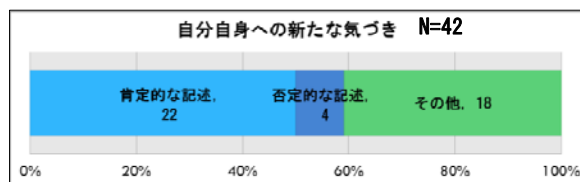


図17 「自分自身への新たな気づき」に対する生徒の記述の質的分類

表19 「自分自身への新たな気づき」の記述例（下線は筆者による）

- ・その内容に対して、どう考えて答えを出すのか、反対の意見とくらべてどう思うか、とかよくわかりました。人の意見も大切ですね。
- ・周りの意見を聞いた方がよくわかる。
- ・それぞれの問題を解決するには、自分と相手の意見を照らし合わせて、見えてきた新たな問題を解決する事、それをくり返す事だなどと思いました。
- ・反対の意見は自分の為になる。
- ・今までは自分の意見ばかりだったけど、自分と違う意見をもっている人の意見にも耳を傾けるようになった。
- ・保健が好きになっていた。
- ・人の意見を聞いて、自分では考えつかないことがあったこと。
- ・今までふざけて授業をやったりしてたけど、授業をしっかりやっている自分に驚いた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究から見えてきたこと

社会や他者とのつながりを授業に取り込むことで、生徒の思考に広がりや深まりを見せるようになった。そこから生徒は、自分自身を客観的に見られるようになり、授業で身につけた力に気づき、そして自己理解を深めていった。社会そのものが身近に迫っている高校生だからこそ、自己を客観的に見られるようになると同時に、社会とどのようにかかわっていくかを考えようとしていたと思われる。

生徒が自己理解を深めるために、我々高等学校の教師がすべきことは、「将来、どういう職業や学校に進むか」を迫るだけではなく、自分に向き合うために必要な社会や他者とのつながりという媒介を通して、自分にはどんな力があり、さらにどんな力をつけたら今より成長し、社会に貢献できるのかを考えさせる機会を設けることではないだろうか。そのことが、将来を見通した上で主体的なキャリア選択の力へとつながると考えられる。さらに、教師が示した学びと社会とのつながりを多くの生徒が前向きにとらえて、自分なりに真剣に学びの意味づけをするようになっていった。キャリア教育の視点を授業に取り入れることによって、生徒の授業に対する意識が変化したと言える。

研究を通して、生徒の自己理解の深まりのほかに、生徒の自己理解が進むことで、生徒は他者の考えを参考にするために話をよく聞くようになり他者理解がさらに進んでいくことがわかった。また、問題を掘り下げて考えようとする課題対応能力や、「なぜ学ぶのか」を考えるとといったキャリアプランニング能力のように、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力の他の部分の向上も見られた。

これらのことから、「自己理解・自己管理能力」に着目し、キャリア教育の視点として教科指導に取り入れたことが、基礎的・汎用的能力の他の部分の向上にもつながり、本研究は、効果的なキャリア教育ができたと考える。

2 教科指導にキャリア教育の視点を入れることの有効性について

(1) 教科指導に「自己理解を深めるキャリア教育の視点」を取り入れることの有効性

「自己理解を深めるキャリア教育の視点」を取り入れることによって、有効であると思われる点を生徒と教師のそれぞれの視点でまとめると次のようになる。

生徒	①自分自身の変容や成長に気づくことができる。
	②自己理解が深まると、自分の課題が明確になり、自分自身で学習の取組を工夫することができる。
	③自己理解の深まると、他の生徒や教師の話をしっかりと聞こうとする姿勢が身につく。そして、授業が落ち着いた雰囲気になっていく。
教師	①授業の構築にあたり、「指導すべき内容」と「身につけさせたい力」の二つの軸をもつことで、目標と手立てが明確になる。
	②取組を継続することで、生徒の変容や取組に対する意欲や関心の把握ができる。
	③教師自身の教材のとらえ方や授業の構築の仕方のふり返りができる。

(2) 「自己理解を深めるキャリア教育の視点」を取り入れるにあたっての留意点

「自己理解を深めるキャリア教育の視点」を取り入れる時に留意する点を、次の四点にまとめた。

- ①生徒が変容するには時間がかかるので、設定した目標については長期的な取組が必要であること。
- ②「社会とのつながり」については、学習内容に取り込むことができない教科もあるので、その際は「なぜその教科を学ぶのか」という授業を展開して学校の学びと社会のつながりを示すことが重要であること。そのためには、各教科の単元の指導計画や年間指導計画にキャリア教育の視点を取り入れ、計画的に実施する必要があること。
- ③自己理解シートの記入には十分な時間をとる必要があるとともに、指導計画のもとで、効果的な時期を設定すること。
- ④自己理解シートは選択式ではなく、記述式で行うことが大切であること。これは記述する行為そのものが生徒にとって貴重なふり返りの時間となることを考慮する必要があるからである。

3 今後の課題

①教科におけるキャリア教育の視点の取り入れ方

今回の研究から、学習内容や学習活動の進め方のいずれかに社会や他者とのつながりを取り入れることは、どの教科・科目においても可能だと考えられる。これから教科指導にキャリア教育の視点を取り入れる場合、教科・科目の学習内容に応じてとり入れる(図20の①)のではなく、図20の②のように、生徒のキャリア

図20 教科におけるキャリア教育の視点の取り入れ方
(表に示した科目は例としての一部分である)

①	1年	2年	3年	➡	②	1年	2年	3年
国語総合	●	●	○		国語総合	●	○	△
数学I	△	○	▲		数学I	●	○	▲
化学I	○	▲	△		化学I	●	○	△

人間関係形成・社会形成能力○ 自己理解・自己管理能力●
課題対応能力△ キャリアプランニング能力▲

発達課題を考えて、2年生までに、集中的に自己理解を深めるキャリア教育の視点を各教科・科目に取り入れることが有効だと考える。様々な視点から学びと社会とのつながりを示すことができるので、生徒の自己理解もより深まると思われる。今後、多くの教科・科目で実践を重ねる必要性を感じた。

②キャリア教育における評価について

授業の中にキャリア教育の視点を取り込むことは、学習に対する生徒の関心・意欲・態度を向上させる効果が高く、思考力・判断力・表現力の育成にも大きくかかわっている。こうした生徒の意識の変化や能力の向上に対して適切な評価をするためには、学校全体でキャリア教育の明確な目標を設定し、全教師の共通理解のもとに全体計画を作成することが不可欠だと考える。全体計画を持つことで、個々の授業で設定する力や到達すべき生徒の姿も明らかになり、適切な評価へとつながると考えられる。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

村瀬嘉世子・三浦香苗・近藤邦夫・西林克彦
『教員養成のためのテキストシリーズ 5 青年期の課題と支援』 新耀社 2000年

白井 利明編 『よくわかる青年心理学』 ミネルヴァ書房 2006年

神奈川県立総合教育センター
『高校学校における教科でのキャリア教育推進のためのガイドブック』 2007年

仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿島研之助・池場望・下村英雄
『教育再生のためのグランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開』 社団法人 雇用問題研究所 2008年

吉田甫・エリック・ディコルテ
『子どもの論理を活かす授業づくり デザイン実験の教育実践心理学』 北大路書房 2009年

下村英雄 『キャリア教育の心理学』 東海教育研究所 2009年

中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会
『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(第二次審議経過報告)』 2010年

【指導助言者】

国立教育政策研究所初等中等教育研究部長(川崎市総合教育センター専門員) 工藤 文三

川崎市立高等学校長会会長(川崎市立高津高等学校長) 小酒井英一

川崎市立橘高等学校長 新保 利幸

川崎市総合教育センター指導主事 荒井 利之